

仮設住宅等でのディアコニア報告書

2016年6月18日 Café de FUKUSHIMA 石川和宏

* 報告期間：2016年5月29日（日）～6月8日（水）（2016年第6次）

◇5月29日（日） p.m. 礼拝後横浜発

◇5月30日（月）現地調達生鮮品買い出し 仕込み（前半3ヶ所分）

【1】5月31日（火）「南相馬市飯館村自治会」

全村避難の飯館村民で、南相馬市に避難し、みなし仮設などに住んでおられる方々が対象。

その方々の自治会（会長北原昇さん）からの招請（2回目）

飯館村から南相馬市の借り上げ住宅などに避難している方は415人（198世帯）いる（飯館村2016.6.1）。村全体でも、仮設に住む方（901人）よりも借り上げ住宅に住む方（2,226人）の方が多い（同）。このような方々を多数支援できる貴重なチャンネルである。

案内のチラシは200部を村役場に送り各世帯に発送して頂いている。

自治会では、2ヶ月毎にお茶会を開催しているが、毎月にしたという飯館村の意向もあるとのこと。今後隔月毎の開催を要請されている。しばらくの間続きそうである。

皆さんに提供したのは、腹話術・きみまるライブ（DVD）上映・昼食（豚汁）・自家焙煎コーヒー（ケーキ・お菓子付き）

会場は、南相馬市原町区の石神生涯学習センター（この職員の方には、好意的に対応して戴いた。）

東電社員の方が3名手伝いに来られた。

毎日顔を合わせることができるとは違い、皆さんは、ほとんど1ヶ月振りに会う村民同士なので、とても賑やかな会になった。その分こちらが話しに加わることが難しいが、皆さんに会う機会を提供することができた。

村役場の広報の方が取材に来られた。

奉仕者は石川和宏・石川千鶴子



支援の結果

参加者数30名（内男性8名）他に村役場の方2名 東電の方3名 支援者2名 合計37名

ご飯24カップ 豚汁16リットル（全てなくなった）

（庖丁研ぎは、会場の都合で、なし）

皆さまからお聴きしたこと・参加者の様子など

・ブランド牛「飯館牛」を育てていた。市場にブランド牛として認知されるまで長い時間が掛かった。やっと東京の市場に出せるようになり、安定したと思った矢先だった。70年掛かった仕事だったが、一瞬の内に失った。津波だったら戻れるのに。

・息子は、那須に行き花作りをしている。



【2】6月1日(水) 相馬市 「大野台第8仮設住宅」

全町避難している浪江町の方々。2回目の訪問（前は2015年6月）浪江町役場の仲介
浜通りにある浪江町の仮設2ヶ所の内の1ヶ所で、山の中腹にあり、交通の便はかなり悪い。
浪江町役場の仲介 後藤一子牧師（同盟キリスト教団）に参加して頂いた。

1年前の参加者は10名だったが、今回はなぜか想定を超える多数の方に参加して頂いた。
奉仕者は、後藤一子牧師・石川和宏・石川千鶴子

支援の結果

参加者数 21名（内男性3名・幼児1名）

庖丁研ぎ 9世帯 10本

ご飯 16カップ 豚汁 8リットル（全てなくなった）

皆さまからお聴きしたこと・参加者の様子など

原発からの避難について

- ・地震の後、バイクで津波を見に出掛けた。
- ・津島に逃げた。先に逃げた家族を捜すのに苦労した。
- ・車の中で2泊した。水は川の水を飲んだ。
- ・2日間食うものが無く、食えなかった。
- ・8月まで二本松の体育館に避難していた。その後猪苗代の旅館に移った。
- ・家は原発から7km以内で、そこからは発電所が手に取るように見える。準備区域で線量は高くないが、（西に）2～5km先に行くと急に線量が高くなる。爆発で放射能が一旦高く昇ったので、原発の近くはかえって線量が低いのではないかと思う。
- ・請戸の近くの浜に家があった。夫と息子が津波で流された。二人は、津波が来た時常磐高速道路のフェンス工事をしていた、私を助けに来てくれて流された。放射能で1ヶ月間捜すことができなかった。遺体は見つかった。原発が無かったらと思う（*）。墓は新しく建てた。

*【消防団員“救える命があった”】 NHK NEWS WEB 2012年3月5日 18時50分

震災直後に避難区域で救助活動に当たっていた複数の消防団員は、避難指示が出て救助活動が中断されるまでの間に助けを求める声を聞いたと証言しています。

このうち津波で125人が死亡した福島県浪江町の請戸地区で救助活動に当たっていた浪江町消防団員の高野仁久さんは、震災当日の夜、がれきの中から助けを求める声や、物をたたいて居場所を知らせようとする音を聞いていたということです。

高野さんは、応援を求めにいったん役場の詰め所に戻りますが、機材も人員も足りず、大津波警報が引き続き出されていたため、町の判断で救助活動は翌朝に持ち越されたということです。

しかし、翌日の朝、原発から10キロ圏内に避難指示が出されたため、救助活動に向かうことができず、住民の避難誘導を優先せざるをえなかったということです。

これについて高野さんは、「あのとき、『あす助けにくるから待ってるよ』と声をかけてきたのに、結局、救助に行けなかったことを今でも後悔している。原発事故がなければ何人もの命を救うことができたのではないかと無念に思う」と話しています。

現在の生活・帰還・将来などについて

- ・浪江では、漁業をしていた。まだ再開はできない。
- ・山形に避難していた。そこで施設の管理人の仕事に頼まれた。住居も仕事の中身など条件は良かったが、たとえ浪江に戻れなくても、浪江の近くで暮らしたかったので、断ってここ（相馬市の仮設）に来た。



- ・避難していた山形からは、今でも支援物資が届く。



【3】6月2日(木) 南相馬市 「寺内塚合第2仮設住宅」

南相馬市小高区の方々 2回目の訪問(今回は2015年10月) 南相馬市社会福祉協議会の仲介
172戸建設で160世帯在住している。

自治会長さん始め皆さんに歓迎して頂き、とても気持ちよく支援させていただいた。

米国教会の夏期学校から飲み水の提供の申し出が来ている。皆さんにお聞きしたところ「役に立つ」「助かる」とのことなので、この仮設でも配布したい。

奉仕者は石川和宏・石川千鶴子



支援の結果

参加者数 33名 (内男性4名 幼児1名)

庖丁研ぎ 11世帯 12本 (ハサミ2、ナタ2)

ご飯 25カップ 豚汁 20リットル (全てなくなった)

皆さまからお聴きしたこと・参加者の様子など

故郷の様子

- ・高速道路(常磐道)の近くに家がある。地震では壊れなかった。線量が高いので、家は壊す。
- ・サル、イノシシが多く、被害がある。家は良かったが納屋が荒らされた。
- ・米・野菜・養豚をしていた。豚は100頭を飼っていた。サイボクハム(埼玉県日高市)に卸していた。全部ダメになった。

放射能・除染について

- ・隣の家が未だ除染されていない。除染は、帰る人の家だけなので、そこは線量が高い。
- ・家も田畑も除染が済んでいないのに7月12日の避難指示解除が決まった。「相馬野馬追までに帰して復興を促進したい」と言うが、野馬追は毎年あるのになぜ急ぐのか。市長は政府と足並みを揃えるようになった。

現在の生活・帰還・将来などについて

- ・家は山の方にあり、線量は高い。でも80歳なので帰る。
- ・生活基盤がないので帰らない。
- ・4月の新入学生は、4つの小学校で6人だった。昔は100人いた。
- ・人口減で、4つの学校を1つに統合する。そうでないと学校が成り立たない。
- ・米は作っても売るときは安い。店で売っている値段の半分にしかない。作って売るのは60kgで10,000円、米を買うのは30kgで10,000円。

その他のこと

・小高は南相馬市（鹿島区・原町区・小高区）の中で埋没している。市の全体が避難民ではなく、小高はその一部分なので。



◇ 6月3日（金）（予備日）来客

◇ 6月4日（土）生鮮品買い出し 仕込み（後半4ヶ所分）

【4】6月5日（日）a.m. 南相馬市 「小池長沼仮設住宅」（p.m.原町キリスト福音教会）

南相馬市小高区の方々 現在の居住者は72世帯 8回目の訪問（前は1月24日） 楽自治会長に打診し訪問を決めた。

奉仕者は石川和宏

支援の結果

参加者数13名（内男性3名）

庖丁研ぎ9世帯 10本（刈り込みバサミ 鎌 各1本）

「復興住宅に引っ越した仲良しの友人に頼まれた」と庖丁を持ってこられた方もいた。

ご飯14カップ 豚汁9リットル（全てなくなった）

皆さまからお聴きしたこと・参加者の様子など

- ・ストレスで心臓が悪くなった。ペースメーカーを入れた。事故前は何ともなかったのだが。
- ・来月避難指示解除になるが、帰るかどうかわからない。
- ・帰る人は1／3以下ではないか。
- ・全国に避難し、そこの借り上げ住宅などに居た人たちの中に、避難指示解除でこの仮設に移ってくる人もいる。
- ・小高には（病院・買い物など）何もないので、足（交通手段）がないと帰れない。病院に行くのにタクシーを使うと片道で6,500円も掛かる。
- ・時々天理教が来てくれる。

【5】6月6日（月）二本松市 「旧平石小学校仮設住宅」

全町民が避難している浪江町の方々 51世帯90人が住む。3回目の訪問（前は2015年4月）

浪江町役場の仲介

手芸作品用和服服地を進呈した。（名古屋岩の上教会が集め、サマリタンハウスに届けて頂いたもの）

奉仕者は、遠藤茂雄兄・遠藤清子姉（大和カルバリーチャペル）・石川和宏

遠藤清子姉には、アロマセラピーを参加者のほとんどに行い、好評だった。遠藤茂雄兄には庖丁研ぎを受け持って戴いた。

支援の結果

参加者数 13 名（内男性 1 名）

庖丁研ぎ 8 世帯 8 本

アロマセラピー（ほぼ全員）

ご飯 9 カップ 豚汁 10 リットル

皆さまからお聴きしたこと・参加者の様子など

放射能・除染について

- ・避難区域の線引きには矛盾（問題）がある。
- ・近くの山に行けば、4～5 μ Sv ある。

故郷の様子

- ・浪江の家には、通行証を出さないと行くことが出来ない。
- ・家を片付けてゴミを出しても、処理が追いつかず、山になっている。

現在の生活・帰還・将来などについて

- ・福島市・南相馬市・いわき市などに出来た復興住宅に移った人がいる。前自治会長さんもいわき市に転居した。
- ・この仮設にずっと居ても構わない。



【6】6月7日(火) a.m. 「牛河内第4仮設住宅」

南相馬市小高区の方々 3 回目の訪問(今回は 2015 年 12 月 28 日) 旧知の絆職員の方に仲介して頂いた。
64 世帯在住 奉仕者は、遠藤茂雄兄・遠藤清子姉（大和カルバリーチャペル）・石川和宏

イベントの中身に、アロマセラピーが加わった。遠藤茂雄兄には庖丁研ぎを受け持って戴いた。

午後のイベント準備のため、昼食半ばで遠藤兄姉に後を託し、映写道具を持って次の訪問先に移動した。皆さんとの会話は出来なかった。

遠藤兄姉には、2 時頃までここの支援をして頂いた。

支援の結果

参加者数 12 名（内男性 3 名）

庖丁研ぎ 9 世帯 9 本

アロマセラピー（ほぼ全員）

ご飯 9 カップ 豚汁 10 リットル



【7】6月7日(火). p.m. 「牛河内第3仮設住宅」

南相馬市小高区の方々 4回目の訪問（前は2015年12月28日） 旧知の絆職員の方に仲介して頂いた。24世帯在住

奉仕者は、遠藤茂雄兄・遠藤清子姉（大和カルバリーチャペル）・石川和宏

イベントの中身に、アロマセラピーが加わった。遠藤茂雄兄には庖丁研ぎを受け持って戴いた。

支援の結果

参加者数 13名（内男性3名）

庖丁研ぎ 4世帯 4本

アロマセラピー（ほぼ全員）

ご飯 9カップ 豚汁 8リットル

皆さまからお聴きしたこと・参加者の様子など

故郷の様子

- ・家は荒れ放題だ。作業場にあったかんながら（かんなくず）の上に牛が住み着いた。野生化した牛は、ヤツデ・榊・玉椿など何でも喰う。
- ・イノシシ・ハクビシンが繁殖している。作物を作ろうと思っても、次の日に行くと掘りくり返されている。
- ・繁った木を切っても、処分のため燃やすことは禁じられている。
- ・イノシシは、タケノコの根っこを喰う。上の方は喰わない。
- ・畑に生えたアカシヤが太くなってしまった。

放射能・除染について

- ・家の除染は未だだ。予定はあるのだが。
- ・畑は未だ除染していない。
- ・田んぼは、表土を剥ぎ他から土を持ってきて補う。かぶせた表面には10cmの凹凸があってそのままでは田んぼとして使えない。
- ・客土に小石が混じっている。
- ・傾斜地の客土は、軽い土質なので、雨で流されてしまう。転圧してもダメ。
- ・畑は、客土に混ぜている成分のせいで、雨が降ると固くなる。
- ・試しに大根を作ったが、放射能は出なかった。
- ・ブルーベリーは4ベクレルだった。

現在の生活・帰還・将来などについて

- ・戻るつもりでリフォームしたが400万円掛かった。これを賠償してもらえるかは、未だ分からない。
- ・解除になって戻るのは1/3くらいだろう。
- ・自分の部落では、帰るの人は1割だろう。

◇6月8日(水) 片付け・補充品確認 横浜へ

【8】今回の支援のまとめ

- ・小高区民（南相馬市4ヶ所）、浪江町民（二本松市と相馬市）、飯館村民（南相馬市）の合計7ヶ所（6仮設住宅・1自治会）で、原発から逃れている方々を支援した。
- ・出会った方は、支援対象者のみで135名（内男性25名）
- ・庖丁研ぎは、50世帯53本
- ・メニューは、いつもの昼食（豚汁）・自家焙煎カフェ・DVD上映・腹話術・庖丁研ぎ。

- ・6日と7日の3ヶ所では、遠藤兄姉（大和カルバリーチャペル）に手伝って戴いた。プロのアロマセラピー（遠藤清子姉）は、参加者のほとんどが施術を受けておられ、好評だった。遠藤茂雄兄には庖丁研ぎを受け持って戴き、その分私は楽になり、他のサービスに回る事ができた。感謝。
- ・6月1日（相馬市大野台第8仮設）には、ここを2011年当時から支援している後藤一子牧師（同盟教団）に加わって戴いた。チラシ・ポスターには、後藤先生が参加される旨を書いたが、先生に会うために参加された方もおられた。
- ・今回も、チラシ配布やポスター出しは、役場や自治会長さんに全て引き受けて頂いた。多くの方に来て頂くには、事前の周知（PR）が不可欠であり、足を運ぶことなくそれが出来るのは有り難い。
- ・当日は、資材搬入から配膳・食器洗い・車への積み込みまで、皆さんに手伝って頂いた。被災者の皆さんは、喜んで配膳などを手伝ってくださる。座して支援を受けるのではなく、少し「支援する側」に身を置く時間は、被災者自身にとっても、とても大切なものだと思う。
- ・支援は、準備や人手・機材の都合で、通常一日1ヶ所だが、今回遠藤兄姉の協力と支援先仮設のご理解を得て、同日2ヶ所の支援にトライした。少し馴れた人手があり、親しい支援先仮設住宅が近接してあれば、可能である。（名古屋岩の上教会の皆さんが来た時には、3仮設同時開催をしたことがある。）より多くの被災者の方を支援するために、条件が整えば今後も行いたい。
- ・集会所掲示板や集会室の予約状況から判断すると、外部からボランティアが支援に来るのは、多くの仮設で月に1回より少ないと思われる。食事を提供するところは、ほとんど無い。Café de FUKUSHIMAの支援の形は、準備に多くの手間が掛かるなど、支援する側の負担も大きいですが、たくさんの方々に出会えているので、当分続けていきたい。

【9】避難指示解除について

- ・最近、私が回っている市町村で、避難指示解除が相次いだ。
 - ◇南相馬市：7月12日 帰還困難区域（1世帯2人）を除く小高区全域と、原町区の一部の避難指示解除準備区域と居住制限区域（同計3,516世帯10,967人）。(5月27日発表)
 - ◇川内村6月14日 東部に残っていた20km圏内「荻・貝ノ坂地区」(19世帯51人)。 (5月31日政府決定)
 - ◇葛尾村6月12日 帰還困難区域（33世帯119人）を除く全域（418世帯1,350人）(5月31日政府決定)
 - ◇飯舘村：帰還困難区域の長泥地区を除く全域、2017年3月31日午前0時に避難指示を解除（6月15日政府発表）
解除対象は村の大半となる避難指示解除準備区域と居住制限区域の5,917人、1,770世帯。
- ・除染そのものも、いずれも終わっておらず、例えば7月12日に避難指示解除になる南相馬市の進捗は、農地で34%、道路で39%である(南相馬市の避難指示区域 2016.4.30 現在 南相馬市資料)。
- ・「参院選直前でにわか」である。被災者・避難者の皆さんの証言でも明らかのように、除染など生活環境の復旧は、同じ市町村内であっても「隣とでさえ違う」バラバラなのに、無理矢理一括りにしている。
- ・一方で避難者への賠償は、「避難指示の解除から相当期間(1年間)とさせていただきます」(東電2014.3.26)であり、避難指示解除は、賠償金(月10万円)が無くなることを意味する。

「放射性物質で汚染された地域の除染も進み、避難指示解除も徐々に進展しています。」「避難指示解除準備区域、居住制限区域の避難指示解除、…などを強力に進める」「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に際しては、世界から被災地の復興状況が注目されます。その時に、輝かしい凜とした復興の姿を見せる」(自民党東日本大震災復興加速化本部2016.3.11)
- ・解除は、このような政府与党の見解と意図に沿って進んでいるのであろうが、被災者の生活再建ではなく、「世界に見せるための復興」には、被災者の目線で強い違和感がある。
- ・横浜からの往復で、常磐高速道路を通るが、通る度にフレコンバックの山が増える。場所によっては右も左もフレコンバック置き場である。「福島県内に13万ヶ所に1,000万個」(産経新聞2016.6.11)と言われている通りである。そこに戻ることを強いられた避難した方々の辛さは、察して余りある。かつてある被災者から聞いた、我々にとっては、戻る

にしても諦めるにしてもどちらもうれしい選択ではない、という悲痛な言葉を思い出す。

・今期間中に、5歳の幼児を含め子供の甲状腺がんが15人新たに見つかったという報道があった。イベントには若いお母さんも参加されていたが、衝撃を受けたであろうことは容易に想像できる。

次回以降の予定

◇7月18日発～7月27日戻り（2016年第7次）

7/18（月）横浜発 荷物搬入 仕込み 遠藤兄姉サマリタンハウス泊

7/19（火）飯舘村自治会（南相馬市原町区・飯舘村民） 遠藤兄姉（大和カルバリーチャペル）の協力あり
小高区復興住宅（7/26）打合せ（下見）

7/20（水）松川第1仮設住宅（福島市・飯舘村民） 遠藤兄姉の協力あり

7/21（木）南相馬社協元気塾（南相馬市鹿島区・南相馬市民）

7/22（金）買い出し・仕込み

7/23（土）狐田仮設住宅（三春町・葛尾村民）

7/24（日）（教会礼拝）買い出し・仕込み

7/25（月）小田部仮設住宅（本宮市・浪江町民）

7/26（火）小高区復興住宅（南相馬市小高区・南相馬市小高区民）

7/27（水）横浜戻り

◇8月20日頃～8月27日頃（2016年第8次）

◇9月17日頃～9月26日頃（2016年第9次）

9/23～24 名古屋岩の上教会と合同開催